

淵上：「韓国の儒教思想と『水子供養』-宗教信者の妊娠中絶に関する考察」

Q 信仰歴が長い、信仰心が深いと中絶経験率が上がるということだが、年齢効果が効いているのではないか。年齢が高いと中絶経験率は蓄積して上昇し、年齢と信仰歴が相関しているならば当然、信仰歴と中絶率は正の相関を示すだろう。

A 年齢に関しては資料がないので、はっきりしたことは言えない。

Q 韓国で性選択に着床前診断はつかわれないのか。

A 着床前診断の技術は90年代以降のもので、比較的新しい技術。体外受精でしか使えず、一般的ではない。精子選別法による技術などもあるが未熟で確実性がない。今後、男女を産み分けられる技術で確実性が高く負担の少ないものが出てくれば、韓国で広く利用されることになるだろう。

Q 菩薩戒とは本来あらゆる殺生を禁じる教えであり、中絶率は下がるはずでは。

A 台湾の菩薩戒と内容が同じか調べる必要がある。

宗教心の厚さを証明するものであり、中絶の免罪符になっていると考える。

Q 宗教人口分布と富裕層の分布は相関関係があるのでは。

富裕層に無宗派層が多く、人権意識の高さから中絶をさけるということは考えられないか。

A 所得に関する資料がないので、はっきりしたことは言えない。おそらく無宗派層は、裕福な層と貧しい層に分かれると考えられる。

Q 韓国で男の子と女の子を育てる教育費には大きな違いがあるのか。

A 生み分けの費用、受験戦争に勝つための教育費、徴兵制を逃れるための留学費など、男の子を育てるほうが、はるかにお金がかかる。

Q 他の近隣の国でも出生性比は男子に傾いているのか。

A 中国でも男子の出生性比がとても高い。

Q 80年代以降に中絶胎児の霊障を訴える人が出てきたのは、出生率低下を受けて政治が中絶をスティグマ化する動きがあったからではないのか。

A 経済成長に伴い、人権面での意識が高まったと考えられる。

Q 民衆は普段から利用している伝統的な宗教施設で水子供養も受けたがる？

A 伝統的な儒教観に沿った宗教が重んじられる傾向は強い。
水子供養に特化した立派な寺院を建てても流行らなかった事例を見た。

Q 中絶を禁止した上で免罪符を売るのは宗教の作戦？

A 純粹に宗教的な意識を持って反中絶を説いていると考える。
商業主義が見えると民衆の心は逆に離れる。

清水：「生命倫理-水子供養から見る日本人の生命観」

Q 水子供養が定着したというのは本当か。

儀礼的なものはやはり衰退しているのではないか。

A 水子供養という言葉が若い人でも知っていることを考えれば、定着したといえる。ただ、パワーストーンなど宗教の形態をとらないものにとって代わられている部分はある。

Q 70年代以前と以降の水子供養の違いがいまいちわからない。

A 70年代以降の一定の形式をとった儀式を水子供養と呼ぶ。それまではきちんとした儀式の形態をとっていなかった。

Q 超音波診断装置が使われるようになったのは1966年で正しいのか。

その時はまだ精度がよくなかったと考えられる。

A 確かに、胎児の形が見られるようなものではなかったので、現在のエコーとは違う。調べてみる。

Q 江戸時代の人口停滞の原因のベースには栄養不足があるのでは

A 栄養状態は階層によって大きな差があった。栄養状態の悪さは乳幼児死亡率の高さに含まれると考えている。

Q 確実に流産を引き起こすような薬が存在しえたのか。

A 母体の安全を保障しないのであれば可能。

Q 江戸時代の乳幼児に対する供養とは具体的にどのようなものだったのか。

A 大人に対する葬式とは違うということなので、川に流す、墓に入れず家の敷地に埋める、生魚をくわえさせるなど様々。

Q 受胎直後の胎児をヒトとみなす観念を日本人がもっていたのか。

数え年は多くの国で使われており、根拠が弱い。

A それは認める。双子の順列のつけ方は根拠になると考える。

Q 江戸時代には経済的な理由で間引きが行われており、戦後すぐに経済的な理由での中絶が認められたという共通点が興味深い。

A 戦後の経済的理由というのは建前。形骸化しているが、現在の中絶にはそこしか抜け穴が与えられていない。

Q 台湾では人が死ぬと遺体は家に一度帰るのが原則。日本ではどうか。

A 死生観としてはそういう部分はあるが、住居の狭さなどが要因で、最近では直接葬儀場に運ぶケースが増えている。地方ではまだ、遺体と家で過ごす風習が残っている。

Q この水子供養の研究は、今後どのように発展していくのか。

A 今回は教科書用に書いた。新しい知見があれば加えていく。

李：「限界的な医療に対する大学生の意識」

Q 倫理教育が高校で行われなくなったというのは本当か。確認が必要ではないか。

A 文部省の指導要綱からは外されていないのかもしれないが、実際には授業を受けていない学生がほとんどで、あっても公民の中の一部として軽く触れられるだけ。

Q 医学部1年生で倫理を習っても、脳死問題などまだピンとくる段階にない。倫理教育も楔形にしてやっていくべきでは。

A その必要性を強く感じている。

出席者： 淵上、清水、李、井田、日比野、牧、浅見、他